

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

(報告)

公立大学法人 奈良県立医科大学

【開催趣旨・目的】

第3次男女共同参画基本計画では、「理工系分野の人材育成の観点から、女子学生・生徒の興味・関心の喚起・向上にも資する取組を推進するなど女子学生・生徒のこの分野への進路選択を支援する。」とされており、第4期科学技術基本計画でも女性研究者の採用に関する数値について「医学・歯学・薬学系合わせて30%の達成を目指す。」との目標が掲げられています。

しかし、本学を例にとると医学部医学科での女子学生の比率が約30%であるのに対して、大学院修了後も研究を継続していく者の比率は半減するなど、医学部進学も研究者への道のひとつであることをイメージできていない女子中高生が多い。

そこで、女性研究者による基調講演やパネルディスカッションおよびサイエンスカフェを通して、医学系・生命科学系の研究に触れることにより、将来の進路を選択する中学あるいは高校時代に、i) 医学部卒業後に大学院へ進学すること、ii) 臨床医を続けながら研究にも取り組んでいくこと、iii) 基礎医学・生命科学の研究を続けることを認識し、女子中高生が医師となった後、医学系・生命科学系の研究者として生きる道も選択肢の一つであることをイメージできるようになることを目的として開催しました。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

女子中高生の医理系進路選択支援～医理系の研究って、すっごくおもしろい！～

【日時】平成26年1月11日(土) 10:00～16:00

【場所】奈良県文化会館(奈良県奈良市登大路町6-2)

【参加者数】58名

【プログラム】

開会挨拶：公立大学法人 奈良県立医科大学 理事長 吉岡章

第1部 講演「私の進んできた道、そしてこれから」

大林千穂(奈良県立医科大学 病理診断学講座 教授)

森本恵子(奈良女子大学大学院 生活環境科学系 教授)

第2部 パネルディスカッション「女性が医理系分野で研究するには」

(パネリスト)

根津智子(奈良県郡山保健所長)

水野文子(奈良県立医科大学 細菌学教室 講師)

須崎康恵(奈良県立医科大学 第二内科学教室 学内講師)

植栗千陽(奈良県立医科大学 産婦人科学教室 助教)

(コーディネーター)

吉田昭三(奈良県立医科大学 産婦人科学教室 助教)

第3部 サイエンスカフェ

(コーディネーター)

御輿久美子 (奈良県立医科大学 女性研究者支援センター 特任教授)

須崎康恵 (奈良県立医科大学 第二内科学教室 学内講師)

吉田昭三 (奈良県立医科大学 産婦人科学教室 助教)

(リーダー)

王寺典子 (奈良県立医科大学 細菌学教室 助教)

岡本希 (奈良県立医科大学 地域健康医学教室 講師)

辰巳晃子 (奈良県立医科大学 第二解剖学教室 准教授)

豊田ふみよ (奈良県立医科大学 第一生理学教室 講師)

松吉ひろ子 (奈良県立医科大学 第二生理学教室 助教)

山内晶世 (奈良県立医科大学 生化学教室 助教)

【参加者からの主な意見】

- ・一口に医理系と言っても、たくさんの道があるんだということを知った。自分にもいろいろな可能性があると思っていて、これから進路を決めるのに役立てようと思う。

(中学生女子)

- ・女性の医理系での活躍について今までに知ることができなかった情報などが得られ大変参考になりました。(高校生女子)
- ・医理系を目指す学生や保護者にとってモデルとなるような講演であり希望が生まれるもので良かった。また、一つの道をまっすぐ進むことだけでなく寄り道してゆくことも無駄ではないというメッセージが若い人に伝わるお話でした。(40代女性)
- ・研究の面白さが分かった。(中学生女子)
- ・中高生がどうして勉強するのか、そして大学に行く理由とは何なのか分かった気がします。(高校生女子)
- ・私の興味のある小児科の先生や、おなじ高校から県立医大に入学してがんばられている先生がいて、医師や研究者を身近に感じられました。(高校生女子)
- ・女性が社会に役立ち、人のために働くという大切なメッセージをこれからの若い方々に伝えることができた、とても良いディスカッションであったと思います。(40代女性)

【シンポジウム等を通して得た成果 (効果)】

- ・医理系分野で活躍をする女性研究者の講演や研究内容の紹介を通じて、普段接することの少ない医理系女性研究者の存在や活動を周知した。
- ・女性研究者の学生時代の思い出やキャリア形成上の苦労話等、これまでの人生を振り返る内容の講演から、女性研究者をより身近な存在と捉え、研究をすることが特別なことではないと感じ、女子中高生の進路としても選択し得ると感じてもらった。
- ・医理系の中にも多様な進路があり、女性研究者も多様な人生やキャリアを歩んでいることを周知し、女子中高生の進路選択の参考となった。

- ・女性が生涯を通じて学び働くことの素晴らしさを伝えることで、女子中高生の勉強へのモチベーションを高めた。

【今後の課題】

- ・参加者を増加させるための広報の工夫が必要である。
- ・医理系研究の一端を体験できるような演示実験を希望する意見があったので、今後は、よりわかりやすく研究のおもしろさを伝える「実験教室」の開催を目指す。